

学位被授与者氏名	高木 翔平 (たかき しょうへい)
論文題目	『大聖堂』とコミュニケーション －Raymond Carver の共感的世界－
論文審査結果の要旨	<p>従来、Carver の批評といえば、ミニマリズムと呼ばれる彼の文体に関するものが多く、また内容に関しても日常的な人間の営みが描かれているだけで、その価値を殊更取り上げるものがなかった。本稿はカーヴァー文学の中でも最も有名な短編集『大聖堂』を扱い、従来の批評家が見落としてきた登場人物たちのコミュニケーションのやり取りに正面から向き合い、そこに焦点を当てることで、アメリカ社会だけでなくコミュニケーションに問題を多く抱える現代社会における Carver 文学の新たな意義を明らかにした。</p> <p>カーヴァーの批評があまり多くない中、資料をしっかりと探し出し、それらの先行研究にあたり、従来の批評にはない独自の視点を取り入れている点がまず高く評価できる。また、コミュニケーションの問題を扱うにあたり社会学や生理学といった他分野の知識をも広く求め、それらを援用したという点にも本稿の独自性がうかがえ、その手法により論の信憑性を高めることに成功していると言える。他にも、短編集の各作品をすべて論の中に巧妙に組み込み、最後に「大聖堂」でまとめるといった構成力も見事であり、論の一貫性が保たれている点も指摘しておきたい。以上のような優れた点が多く見出せる本稿は、卓越した論文であると評価できる。</p> <p>平成 29 年 2 月 21 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E-313 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(英米言語文化)として十分な内容であると判定した。</p>